

「脚下照顧」

「四日市と黄金水」との関係



皆さん連休工事、御協力ありがとうございました。皆さんのいぶし銀のような活躍で何とか全ての工事を完了することが出来ました。

特に四日市での作業は60名を超える人員にも関わらず、日頃親会社アマノさんの仕事で、トヨタ系の工場で培った安全意识と、手際の良い作業で客先から「さすがテクアさん、すごいチームワークですネ!!」とお褒めの言葉を頂きました。

褒められると人間嬉しいもので、これだけトラブルにつぐトラブルで神経が磨り減ってしまった作業にも関わらず、また挑戦してみたい気持ちになるのが不思議です。

人はみな心の中にバケツを抱えていて、過去に受けた他人からの「称赞」「掟」「褒め言葉」「承認」「非難」「批判」「悪口」などの言葉を溜め込んでいると言われてます。

いい言葉(黄金水)をたくさん貰って溜め込んでいる人は明るくエネルギーでヤル気に満ちていて、悪い言葉(泥水)をたくさん溜め込んでいる人は元気が無く落ち込んでいて、全てに否定的で、他人に対しても批判的で、ヤル気を感じないような外見になってしまうそうです。

その人のその時の顔つき、表情にほぼ正確にそれが表われてしまうと言うので、要注意(汗)。

ですから人は、常に黄金水を他人から欲していて、「もっと自分に黄金水を注いでくれ、何でくれないんだ!!こんなに頑張っているのにおかしいじゃないか!!」という心境になってしまうのですが、そうなればなる程、焦り、自己主張が強くなり、排他的で、益々他人から批判され泥水が増えていくという悪循環システムが作動してしまいます。

この悪循環システムから抜け出す為にはどうしたらいいと思いますか？

答えは、ただ黙々と自分が欲って欲って欲っている黄金水(称赞、肯定、褒め言葉、承認)を他人に注ぎ続けることだと言われてます。

注ぎ続けるとその人の抱えているバケツから黄金水があふれ出し、自分にまで降りかかってきて結果、自分のバケツも黄金水で満たされるということです。

我々は機械を相手に仕事をしているので、我々の黄金水はチームワークよく動き、安全な仕事をする、確かな品質の仕事をする、5Sを徹底する、こんなことの繰り返しから湧き出て、お客様に降り注がれるのではないのでしょうか？汗だく、粉塵まみれの顔で仕事を終え、洗面所でジャブジャブ顔を洗っている時などに期せずして客先からの黄金水を頂く、こんな経験をテクアのメンバーならみんなしていることと思います。

いつもいい笑顔でいられるようにいい仕事をし、いぶし銀に輝くバケツを心の中に用意しておきたいものです。

あ、1つだけこの黄金水の法則の例外がありました。

テクアの場合、この黄金水を自分で自分に5日間浴びせ続ける修業(笑)期間がありました。

5月28日から勝手ながらサイパン旅行に行かせて頂きます。黄金週にヘトヘトになって頑張った分だけ黄金水溢れまくります!!



感謝 羽原篤史 